



道返し (丸茂神楽社中)



## 益田市指定文化財

### 丸茂神楽・三谷神楽

美都町には無形民俗文化財に指定されている神楽を伝承している社中が2社中あり、市内だけでなく県外でも活躍中です。

#### 《丸茂神楽社中》

○由来

明治の初期、丸茂神楽社中の「初代」大野亀太郎氏が旧那賀郡三隅町上古和に在住のとき、三隅町湊浦の野上宮司より伝授されました。

大野亀太郎氏は同地で神楽を起こしていたが、明治25年亀太郎氏の妻の出身地旧美濃郡美都町丸茂に移住したの期に、丸茂地区に新たに神楽を起こし、以来、親類縁者同好者が代々継承して今日に至っています。

総長 大野定丸  
代表 下山博之

#### ○益田市指定文化財

- 丸茂神楽・三谷神楽・・・表紙、2ページ
- いまどき美都町・・・3ページ
- ゆずの町誕生物語・・・3ページ
- 美都町内イベント情報・・・4ページ
- 美都地域協議会・・・4ページ
- 美都温泉カウントアップ・・・4ページ

《三谷神楽社中》

○由来

明治初年、大神楽神社宮司大石千代太が中倉の三浦民七に教えて一座をつくらせたのが三谷神楽社中のはじまりです。

神楽の衣装は、昭和の初め頃までは更紗、友禅、金襴等で作った簡素な物でしたが、昭和10年益田市豊川の栃山より450円で刺繍物の立派な衣装一式を購入しました。

当時この衣装は他社中には見られない立派なもので、近隣では群をぬき、見物者を魅了したといわれています。



大蛇 須佐之男命 (三谷神楽社中)

神楽や観光客招待の神楽などに出演しています。一方ではハンセン病療養施設を訪問するなどの活動も行っています。また、子ども神楽の指導にも力を入れており、郷土芸能の伝承、後継者の育成に取り組んでいます。

代表 岡本 隆

丸茂・三谷両社中には現在、20名程度の団員がおり、毎週練習を行っています。



塵輪 (三谷神楽社中)

公演は近隣市町村の神社の祭りを中心に行っていますが、最近では夜

どいま美都町

☆美都町の元気あふれる！

高齢者「よさこい」グループ

全国によさこいグループがありますが、美都町にも元気なグループがあります。

かっこいい！楽しい！！は若い人たちだけのものではない！！と頑張っている町内の高齢者よさこいグループの紹介です。

都茂地区のよさこいグループ『ひまわり乱舞隊』平均年齢は75歳！



若い人と一緒に乱舞！

平成21年に発足した『ひまわり乱舞隊』は、踊りのレパートリーも段々と増え、平成22年からはメンバーみんなお揃いの若草色の衣装を着て、町内外の各種イベントの舞台上で元気に踊っています。

代表の長屋緑さんは「笑顔で楽しんで踊るのがひまわり乱舞隊のモットー！！」



先輩グループ美都袖華連と共演

これまで外に出る事が少なかった人がこの踊りをきっかけに積極的に外出するようになったのが嬉しいし、集うことが楽しい♪と喜んで皆で踊っています。

東仙道地区では『元気の出る会』

の皆さんが活動の中でよさこい踊りをしていきます。



元気いっぱいのメンバー

会員の方は「かつては、子ども達の賑やかな声が聞こえ、仙道の『繁華街』と言われていた私達の地区も今では小学生1人のみとなつてしまひ、殆どの世帯が高齢となり、独居世帯も多くなりました。  
以前は新年会・バーベキューなどで交流の場もありましたが、今では行事も、隣人との会話も少なくなりさみしく思っていたところ、誰となく「集まって何か元気の出ることで

もしようよ」の声上がり4年前にグループが出来ました。

「元気の出る会」と名付け、月1〜2回賑やかに手足を動かし『よさこい踊り』の練習のほか、古布の再利用として手芸、料理と楽しく交流をしています。時には、他のよさこい踊りのグループと共にイベントに参加し披露、お互いに元気をもらいながら活動を続けています。」と笑顔で話して下さいました。

このような団体が少しでも増えるように地域も応援していきます！



息の合った踊り

昭和53年。

美都町金谷地区。過疎化と高齢化が急速に進む中、故 篠原茂幸さんがゆずの苗木を持って一軒一軒の家を回っていました。「これからは、年寄りでも続けられるものを作らにゃあ、金谷は無くなってしまふ」このように思っていた篠原さんを動かしたのは、当時の美都町長の言葉でした。

徳島県木頭村のゆず栽培の話聞いた町長は、篠原さんに話しました。

「美都と同じような環境でゆずを作っている村があるらしい。ゆずは高齢者でも作れると聞いたんじゃが、金谷でやってみんかね。」

篠原さんは早速話し合いを始めました。「肥料は何をやったらええんじゃ」「桃栗3年、柿8年、ゆずのあほうは18年と言うが、本当に実がなるか心配じゃ」「ゆずなんか買ってくれる人がおらんじゃろうか」と考えていた篠原さんでしたが「やるしかないで。何もせんかったら金谷の明日はない」

早速、仲間とともに木頭村に出かけ、取り寄せたゆずの苗木「950本」を畑に植えました。この日から、篠原さんたちのゆずとの格闘が始まったのです。

そして、苗を植えてから3年。待望の実ができました。秋になり、黄金に輝くゆずの実を手にとった篠原さんは、必死だった3年間を思い出し、なんとも言えない喜びが込み上げ、目には涙が光っていました。

その後、ゆず栽培は、金谷地区から美都の全域に広がり、1個たりとも傷のついたゆずは市場に出さないという強い信念を持ち、厳しい品質管理を続けた結果、「美都のゆずなら、箱を開けなくても品質に問題はない」という言葉が聞かれるまでになりました。「美都のゆず」が認められた瞬間でもありました。

今では2万本を超えるまでに広がったゆず栽培。「ゆずは美都の宝物」これは篠原さんの奥さん演子さんの言葉です。収穫が始まる11月。美都の町は黄金色に染まり、最も輝く季節を迎えます。

そうして大切に育てたゆずを『美都物産金谷農産加工』でゆず味噌、ゆべし、ゆずもろみなどに加工し、田舎の昔ながらの味をみなさんの元へ届けています。



美都物産金谷農産加工  
「ゆずの町 誕生物語」

# ★ 美都町内イベント情報 ★

- ★ 3月20日(日) 文化伝承事業『里の神楽』(ふれあいホールみと)
- ★ 3月21日(月・祝) 美都いちご祭り(東仙道公民館)
- ★ 3月27日(日) わがまち自慢フェア「みとの日」  
(益田駅前ビルEAGA)
- ★ 5月3日(火・祝) 美都温泉まつり(美都温泉『湯元館』周辺)
- ★ 5月4日(水・祝) 神楽魂(ふれあいホールみと)

※「益田市」のホームページもご覧ください。

※都合により、やむをえず中止することがあります。ご了承ください。

## 美都地域協議会について

平成22年11月、23年1月に開催された協議会の内容についてお知らせします。

\*美都地域の今後のあり方と題して、次の4項目について協議が行われました。主な意見について紹介します。

### 一、集落機能の維持について

- ◇集落単位での祭事の開催が困難になっている。伝統行事はこれからも守っていく必要がある。
- ◇若い世代の減少によるところが大きな要因になっている。産業振興や若者の雇用が図られなければ、未来を語る事ができない。

### 二、地域振興について

- ◇美都地域には、柚子や温泉など良い素材がたくさんある。これらを活かした振興策を推進する。
- ◇住民、美都総合支所、各地区振興センターの協働が必要。
- ◇地域のリーダーを育てていくことが必要。

### 三、産業振興について

- ◇この地域で生活できるという自信を持てることが大事。
- ◇特産品を活かした商品開発、産直市の開催など収入に繋げていくことに取り組むべき。
- ◇有害鳥獣被害に対する対策が必要。

### 四、定住促進について

- ◇若者を地域に戻すことが必要。
- ◇地域活動の中に若者の参加、若者が役割を持つ施策を考えていくことが必要。
- ◇高齢化が進行する中で、美都町に安心して住み続けることができる環境作りが必要。

## 美都温泉カウントアップ☆

12月31日美都温泉「湯元館」周辺にて年越しイベントが行われました。

今年は大雪の年越しになりましたが、益田ドライビングスクールの生徒さんをはじめ、益田市内から沢山のお客様に来て頂きました。

妙蓮寺で鐘をつき、新宮神社へ初詣に行き地域の方や二川にいられた方との交流をもちながらの、年越しとなりました。



大雪の中での初詣

ふるさと会員への登録や、当情報誌についてのご意見やご要望、または、紹介したいモノや人、グループなどがございましたら是非お知らせください。

なお、ふるさと会員の登録は無料です。お問合せ等は上記電話番号またはメールアドレス  
chiiki.m@city.masuda.lg.jp まで

担当：地域振興課